

「おつ母^かさん、あれが富士山ですよ。」

「おつ母さん、おさしみです。おいしいですよ。」

と、車中でも、宿屋でもつきっきりの世話をし、孝養^{こうよう}をつくしました。

しかし、日本にいたのは、たった二カ月でアメリカに帰らねばなりません。研究所へもどった英世は、再び病原菌^{びょうげんきん}の研究に打ちこんでいきました。

ある日、フレクスナー所長が、野口の研究室に来て、

「野口君、実はアメリカの政府から、きみに南米^{なんべい}エクアドルへでかけてもらいたいと頼みにきたのだが、どうだろうか。」

「黄熱病^{おうねつびょう}の研究ですか。」

そのころ、非常な勢いで、南米エクアドルを中心に流行していた伝染病、「黄熱病」に関心を持っていた英世は、すぐに答えました。

「よろしい。行くことにしましょう。」